

下野市立南河内小中学校

1 学校課題

自己を見つめ、よりよい生き方を求め続ける児童生徒の育成
～自律心を育む道德教育の推進～

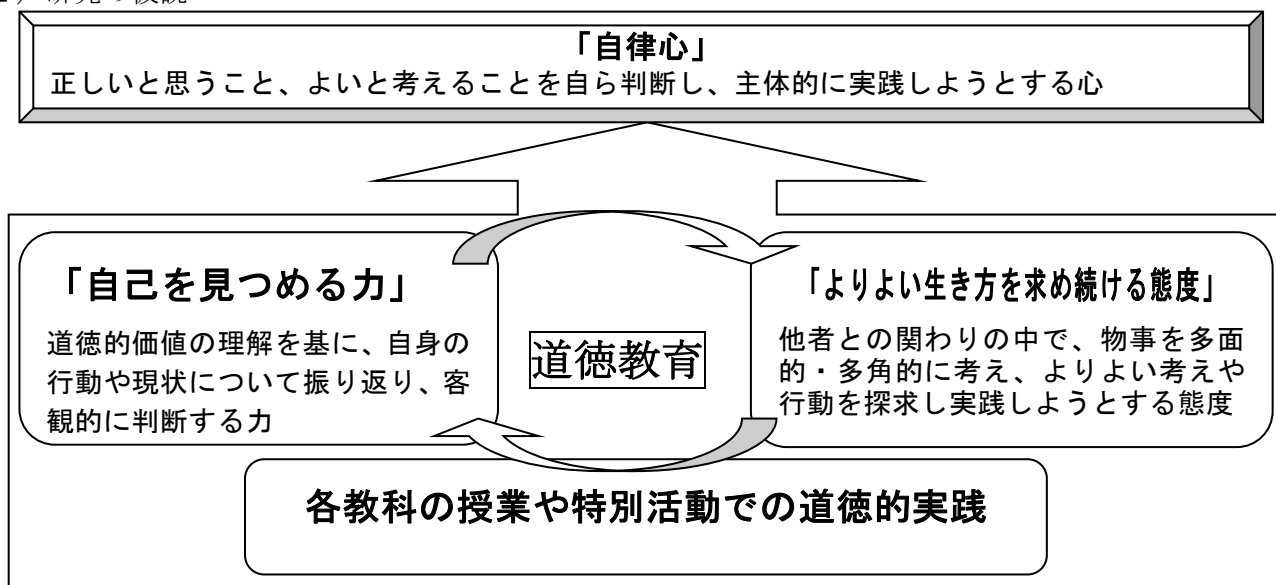
2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校の実態として、周囲を気遣ったり他者を思いやったりすることのできる、寛容で優しい児童生徒が多いことが挙げられる。だがその一方で、周りの意見や友達の言動に流されてしまったり、その場の雰囲気や一時的な感情で行動してしまったりする傾向も見られる。また、どう行動すればよいのか頭では理解していても、実際の生活の場面で正しい判断をする力や、進んで正しいと思うことをする実践力には大きな課題がある。自己肯定感や自己有用感が低い児童生徒全体の傾向も、こうした課題点が大きく影響していると考えられる。

このような実態を踏まえ、広い意味での「自律心」を全校共通のテーマとして道德教育を推進することが、自己を客観的に見つめる力と、よりよい判断や行動をしようとする態度をもつ児童生徒を育成することにつながり、ひいては児童生徒の自己肯定感や自己有用感の向上にも資すると考え、本主題を設定した。

(2) 研究の仮説



- 道德教育を通して、「自己を見つめる力」と「よりよい生き方を求め続ける態度」を育てることは、児童生徒の「自律心」を育むことにつながると考える。
- 児童生徒の課題点である「自律心」を共通のテーマに掲げることは、教職員全員が全学年・全教育活動を通じた道德教育の目標を共有しながら、協働体制で研究を進めることにつながると考える。
- 「自己を見つめる力」と「よりよい生き方を求め続ける態度」は、相互に作用し合うものであり、一方を高めることによってもう一方も高まり、児童生徒がよりよく生きるための道德性を高め育てることにつながると考える。さらに、そうして培われた道德性を基に、各教科の授業や特別活動の中で児童生徒自らが意図的によりよい行動を実践することで、「自己を見つめる力」や「よりよい生き方を求め続ける態度」がさらに高まると考える。こうした効果のスパイラルを実現していくことで、児童生徒が自分の意思や判断で正しく行動することのよさを実感し、「自律心」が育まれていくと考える。

3 研究内容

今年度は、仮説検証の手立てとして主に以下の点について研究を進めながら、本校の道徳教育の課題をより明確化し、義務教育学校としての特色を生かした研究の方向性を探究していくこととした。

(1) 道徳教育における9年間の系統性の確認および道徳科授業の工夫改善

- ①学年内ローテーション道徳の実施（各学年、担任＋1名で一人一教材を決め、ローテーションしながら全クラスで授業を行う。授業のない1名は参観し、授業者と意見交換する。）
- ②授業後の板書画像のデータベース化および授業の足跡（板書やまとめ）の保存・掲示
- ③授業形態の工夫や、授業のねらいに応じた発問や展開の工夫

（S&Uコラボ事業研修での授業研究会の実施）

月日	学年	主題名（内容項目）	課題追究のための手立て等
12/1	1年	よく考えて 『学校のかえりみち』 （善悪の判断、自律、自由と責任）	・学習内容を自分事として捉えるため、アンケート結果を基にした導入と、自分の生活に戻って考える授業のまとめを行う。 ・トリオ学習により、全員が発言機会をもてるようにし、話合いの活性化を図る。



- ④道徳教育全体計画別葉の見直し（重点項目を中心に項目や記載内容を精選し、見やすく使いやすいうように再編集する。）
- ⑤重点項目に関わる道徳科授業における、9年間の系統性を持たせたねらいの作成

(2) 「自律心」の育成につながるような、児童生徒の実践力や実践意欲を高める特別活動の取組

- ①学級活動で、児童生徒自ら学級の課題を見付け、改善を目指す「学級力向上プロジェクト」の実践
- ②学校祭「夕顔祭」における児童生徒会主体での縦割り班活動の工夫
- ③学校行事に際しての目的意識の喚起（キャリアパスポートの活用、実施計画への「重点項目との関連」の明示）



(3) 児童生徒の道徳心を高める校内環境の整備

- ①校内各所への「道徳コーナー」の設置と内容の工夫改善



4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①道徳科授業の工夫改善について、教員間で学び合ったり、講話を聞いたりする機会が持てたことで、道徳科授業についての抵抗感や悩みが軽減され、授業づくりにおける選択肢が増えるなど、各教員の授業力向上につながった。
- ②児童生徒会中央委員主導での「学級力向上プロジェクト」の実践や、児童生徒会を主体とした夕顔祭の活動の工夫により、児童生徒の学級や学校を自分たちでより良くしていこうとする意識や、9年生から1年生までの「縦のつながり」の意識が高まった。
- ③「道徳コーナー」により、児童生徒が道徳科授業の学びの視点を日常生活と結び付けるヒントとなった。

(2) 研究の課題

- ①「授業改善」では、特に「発問」と「対話の深め方」に力を入れ、話合いの活性化を図りたい。
- ②「学級力向上プロジェクト」を基にした啓発や呼びかけ等を行っているが、もっと児童生徒の実践意欲の高揚を図れるように工夫したい。
- ③保護者や地域への情報発信や啓発をどのように進めていくかさらに検討し、実践につなげたい。
- ④児童生徒自身が、自分たちの活動によって「成長できた」「改善できた」という実感や達成感をいかにして感じさせていくか、考えていきたい。